



平成19年元旦 秋田市・妙見山より御来光

新春を迎えて



秋田県知事
寺田 典城

あけましておめでとうございます。県民の皆様には、清々しい気持ちで新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。



題 字 初代会長 松野 盛 吉
 定 価 1部 5円
 (購読料は年会費に含む)
 発行人 〒010-0951 秋田市山王四丁目1番2号 秋田地方総合庁舎内 秋田県消防協会
 会長 中 泉 松之助
 電話 018-867-7320
 FAX 018-863-5910
 E-mail:ask@biscuit.ocn.ne.jp
 印 刷 〒010-0951 秋田市山王7丁目5-29 株式会社 松原印刷社
 電話 018-862-8760

年頭のあひめい



(財)秋田県消防協会
会長 中 泉 松之助

新年をお迎え、関係市町村の消防職員をはじめ消防団員並びに県民の皆様には謹んでお喜び申し上げます。消防関係者の皆様方には、火災、災害等から県民を守るため、献身的に活動されていることに対して深く敬意を表すところであります。

昨年は、三十二年ぶりの豪雪の中、年が明け、消防団員は自宅の除雪に精一杯のところ、高齢者住宅や一人暮らしの家庭の除雪活動に動員されるなど、ご本当に苦勞様でありました。改めて地域住民の助け合いやボランティア活動の必要性を再認識された年始めでありました。

また、一昨年から昨年にかけ県内で話題になってしまった温泉地での硫化水素ガスによる死亡事故や温泉場で発生した雪崩による死亡事故、家屋全焼による焼死事故、

消防団員並びに消防職員の皆様には、あらゆる災害から県民の生命、身体及び財産を守るという崇高な使命のもと、郷土愛護の精神と旺盛な責任感を持って、日夜消防の任務遂行に御尽力されておられますことに対して、深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。さて、昨年を振り返ってみますと、七月五日に弾道ミサイルが北朝鮮から発射さ

れ、さらには、十月に地下核実験が強行され、これらの行為はわが国の平和と安全はもとより、秋田県民の安全に対する重大な脅威であり、許し難い行為であります。この北朝鮮を巡る問題は、今後とも予断を許さない状況であり、県民の安全を確保するため、「北朝鮮を巡る諸問題への当面の対応方針」を定め、万が一の事態に備えることとしております。また、わが国が武力攻撃やテロ攻撃を受けた場合に備えて、秋田県国民保護計画を策定しており、市町村の国民保護計画の策定への取り組みも順調に進んでおりますので、今後は県と市町村の両計画が一体的に運用されることが大切と考えております。国内では、毎年のように相次いで台風が日本列島を直撃し、梅雨前線が活発化し、

役場庁舎の全焼さらには児童殺害事故等、国内では東京での大停電、北海道佐呂間町で発生した竜巻による被害などの自然災害等が続いた暗い年でありました。反面、秋田市出身の東海大山岳部隊員小松由佳さんが世界第二の高峰K2に日本人女性として初登頂したことや都市対抗野球大会で、にかほ市のTDKが日産自動車に四対三で競い勝ちして初優勝を飾り日本一になるなど県民に大きな喜びを与えてくれた明るい年でもありましたが災害が起こるたびに消防人として使命を痛感させられます。

消防団関係では、全国消防操法大会が昭和四十三年に駒沢オリンピック公園で開催されてから初めて首都圏を離れての開催となり、十一年前の阪神淡路大震災を思い起こして、兵庫県三木市にある県立広域防災センターでの大会、本県代表の大潟村消防団は全国大会は六回目の出場歴、堂々とポンプ車の部で優良賞をいただいたところであります。

近年、消防団員の確保が全国的に課題となっており、本県でも、本県では人口減少が進む中、地域における若い年齢層が

全国各地で記録的な豪雨災害をもたらしております。自然災害はもとより、武力攻撃等の不測の事態にも、消防機関には住民の安全・安心を図るため、迅速かつ有効な対応が求められております。このように、消防機関の担う役割は益々重要になってきており、県民の消防に寄せられる期待は、計りきれないほど大きなものがあります。皆様には、今後とも地域の安全・安心と郷土の発展のため、一層の御尽力をお願いいたします。終わりになりますが、皆様の御健勝と今年が災害が少ない一年でありますよう、心から祈念申し上げます、新年のごあいさつとします。

少なく団員の確保に困難をきたしているところでもあります。消防団員の減少が進むなか、市町村合併が一段落し、国においては消防団員を百万人確保しようとしておりますが、市町村の実態では消防団の定数条例の見直しが行われるなどの動きが現れております。しかし消防団の責務として、本来の初期消火活動等を遵守しつつ、女性消防団員の確保や災害等の緊急時に対応する団員の資格等を生かした機能別団員・分団等の新たな取組を検討する必要があると考えております。

また、県協会と致しましては、消防職員・消防団員の福利厚生事業の充実を図ると共に、焼死事故等の痛ましいニュースが伝わるたびに、常日頃から火災について家族で話し合いの火事は絶対出さないと一人一人意識していただけるような火災予防運動を行ってまいりたいと存じます。

終わりに、県民の生命・財産を守るため消防組織体制の充実を図ることを誓うと共に、皆様のご健勝を祈念いたしまして新年のあいさつと致します。

年 頭 の 辞

消防庁長官
高 部 正 男

平成十九年の新春を迎えるにあたり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げますとともに、日頃のご尽力に対して心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。近年、集中豪雨等の自然災害、火災や事故等により、各地に大きな被害が発生しており、その態様も多様化、大規模化の傾向を示しています。昨年は平成十八年豪雪、梅雨前線による大雨、台風第十三号、佐呂間町の竜巻などの風水害や、弾道ミサイル発射のように国民保護の観点から見過ごすことの出来ない事案が生じました。

このような中、大規模災害や事故、テロ等に揺るがない社会を構築し、国民の安心・安全を維持向上させていくためには、国、地方を通ずる防災危機管理体制を構築し、全国的、広域的な見地から消防体制の充実高度化を図るとともに、行政と住民が一体となつて地域の消防防災力を強化していく必要があります。

このため、消防庁では、昨年二月に緊急消防援助隊に関する基本計画を変更し、登録部隊数を三、〇〇〇隊規模から四、〇〇〇隊規模へ増強する目標を定め、三月には省令改正を行い、高度な救助技術や知識及

び高度な救助資機材等を有する救助隊として「特別高度救助隊」及び「高度救助隊」を政令市消防本部等に配備することとするなど、全国的見地からの災害対応体制の構築を進めているところです。

また、市町村の消防組織の体制を充実強化するため、消防の広域化が必要との観点から、昨年六月、消防組織法の改正を行い、七月には「市町村の消防の広域化に関する基本方針」を策定するとともに、消防広域化推進本部を設置し、市町村の消防の広域化を積極的に推進しております。各市町村においても、改正後の消防組織法に基づき、自らの地域の今後の消防防災体制のあり方について、積極的な議論が行われることを期待しております。

一方、地域防災の中核的存在である消防団の充実強化は地域防災力の向上に必要な不可欠であります。消防団員は年々減少を続けています。消防庁では、機能別団員・分団等の新たな制度の導入を図るとともに、消防団協力事業所表示制度を本年一月一日から運用開始することとしており、引き続き、消防団の充実強化に係る様々な施策を推進し、消防団員の確保に全力で取り組んでまいります。

さらに、救命率向上に向けた救急業務の高度化・救急需要対策や、近年増加の一途をたどる住宅火災による犠牲者の減少に向け、住宅防火対策を含めた防火安全等も一層推進し、安心・安全な地域づくりを推進

してまいります。

皆様方におかれましては、我が国の消防の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。皆様方のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新春のご挨拶

財団法人 日本消防協会
会長 片 山 虎之助

平成十九年の輝かしい新春を迎え、全国消防関係者の皆様に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

全国の消防団員・職員の皆様には、常日頃、防災の最前線にあつて、昼夜を問わず、火災をはじめとするあらゆる災害から国民の生命、身体、財産を守るため、献身的にご尽力されていることに対し、心から敬意を表する次第です。

さて、私が全国の消防関係者のご推挙をいただき、平成十八年五月三十日に日本消防協会の第九代会長に就任してから、早くも半年が過ぎました。この間全国消防殉職者慰霊式や初めて首都圏を離れて兵庫県で開催した、第二十回全国消防操法大会、さらに第十二回全国女性消防団員活性化群馬大会などさまざまな行事に出る度に、改めて消防の重要性を肌身で感じ、さらなる消

防の発展のため全力を傾注する決意をより強くしております。

災害が多発するわが国において、安心・安全の確保は国民の強い願いです。特に昨年は、台風十三号と豪雨等による被害や、北海道佐呂間町で発生した竜巻など、さまざまな自然災害により全国各地で大きな被害が発生し、さらに、近い将来大規模な地震の発生も懸念されている。また、火災による被害も後を絶たず、住宅火災による死者が最近とくに増加しています。北朝鮮による弾道ミサイル発射や核実験など、国際的緊張が高まりをみせる中、テロなどの武力攻撃事態等への対処も大きな課題となっています。こうしたことから、安心・安全に寄せる国民の関心は極めて高いものがあります。

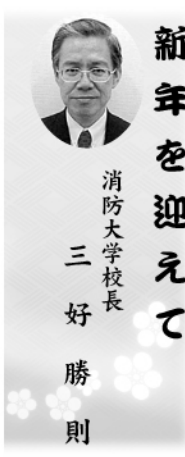
このようなとき、消防防災体制の充実強化は、国、地方を通じる最重要課題の一つです。とりわけ、消防では、常備消防の充実はもちろん、地域防災の中核となる消防団の存在、役割が益々重要になっています。被害が広範囲に及ぶ震災や大規模な風水害等への対応において、要員動員力、即時対応力を持ち、地域に密着した消防団の力は必要不可欠です。

また、国民保護法の施行に伴い、有事の際の地域住民の避難誘導など新たな役割にも期待が寄せられています。

消防団は、地域防災の面だけでなく、地域の人材の宝庫であり、地域連携の要とし

て、地域社会の安定にも貢献しており、安心・安全の地域づくりのためには不可欠な存在ですが、消防団員の数は全国的に減少を続けており、地域の安全を確保する上で大変憂慮すべき状況にあります。こうしたことから、当協会としても、消防団の装備や処遇の改善など、消防団が活動しやすい環境の整備をはじめ、消防団の重要性和役割に対する国民皆様の理解を広める努力をしつつ、消防団員の確保、増員を図るために最善の努力を尽くす所存です。

全国の消防関係者の皆様のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げますとともに、皆様が益々お元気に、地域の安心・安全と郷土の発展のため、一層のご活躍をいただきますよう衷心より祈念して年頭のご挨拶といたします。



消防大学校長
三好 勝 則

新年を迎えて

平成十九年の新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。皆様には、住民の安心と安全のためにご尽力されておられ、敬意を表します。

また、消防大学の運営にご協力いただき、感謝申し上げます。

本大学校は、最新の知識と技術を身につけるとともに、情報交換や討議により日頃抱いている問題を解決するため、全国で働

く消防職員・団員が一同に会することのできる教育訓練機関であります。

住民の生命、身体、財産を災害から守る使命を負う消防職員・消防団員の中でも、特に幹部や指導的立場にある人達に必要な教育訓練は、時代とともに変化しています。

一つには、多様化、複雑化、大規模化する災害への新たな対応です。生活環境や住民意識の変化、科学技術の進歩などによって、火災や事故の様相が変貌しています。これらに迅速・的確に対応するため、組織や装備の整備とともに、人材の養成が急務です。

二つ目には、世代交替です。昭和四十年から五十年までの十年間で、消防署の数が、一・七倍となり、消防職員は四万八千人から十万人以上へと二倍以上に増えました。この時期に採用された方々が退職期を迎えます。これに伴い多くの職員が異動の対象となり、特に、各本部の責任者や各組織の管理者に登用される機会が多くなります。

それぞれに相応しい心構えと知識が不可欠です。第三には、一人一人の守備範囲が広くなることです。地方自治体は、行財政改革のまっただ中です。職員や団員の定数を増やすことは、容易ではありません。一方では、消防に寄せられる期待はますます大きくなり、災害要援護者への対応など、これまで以上にきめ細かな活動が求められます。

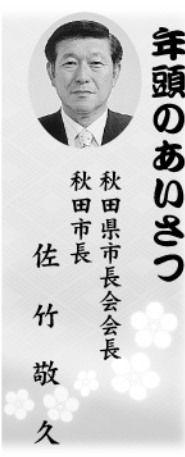
また、未知の事態が発生したときにも、放置することは許されず、速やかに対応しなければなりません。そうした能力を普段か

ら養っておく必要があります。

消防大学校では、消防本部の中核を担う職員の要請課程として「幹部科」を平成十八年度に新設しました。これからの消防を背負う期待を込めて教育しております。また、消防長・消防団長をはじめとする上級幹部への総合教育、高度な専科教育、時代に合わせた実務講習について、再編や内容の充実を図っています。さらに新たな教育方法として、eラーニングを開発しました。幹部科への入校者が個別に学習できるよう、事前に教材を提供しています。

住民が安心して暮らせる地域づくりに邁進する人材の育成に、ご理解とご協力お願い申し上げます。

皆様方のご健勝とご発展を祈念しまして、ご挨拶といたします。



秋田県市長会会長
秋田市長
佐 竹 敬 久

年頭のあゆみ

全県消防関係者の皆様に、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、日々、技術力の向上と士気の高揚に努められ、各種の災害から地域の安全と安心を守るため、全力を挙げて取り組まれておりますことに、心から敬意を表し、深く感謝を申し上げます。

さて、社会経済の発展と情報技術の進展により、私たちは豊かさを実感できるよう

になりましたが、反面、都市化の進展や核家族化、ライフスタイルの多様化などにより、人間関係の稀薄化や地域社会の崩壊が憂慮されるようになってまいりました。また、その一方で、わが国は本格的な高齢社会を迎えようとしております。特に、秋田県の高齢化率は年々増加しており、平成二十二年度までには、全国一となるとの将来推計も出されております。

消防を取り巻く環境は、時々刻々と変化しております。幸いにして、高度な消防防災力を備える常備消防と豊富な知識と技術を有する消防団、そして地域の実情に精通した企業・住民の三者が一体となり、あらゆる事態に即時対応できる体制が確立されておりますことは、関係各位のご努力の積み重ねの賜物であり、誠に心強く、私も多に誇りに思う次第であります。

しかしながら、皆様の昼夜を厭わぬ懸命な努力にも関わらず、日常生活の物資面において多岐にわたる脅威をもたらす各種災害は後を絶たず、毎年、尊い多くの人命が犠牲となっております。

目まぐるしく変化する社会環境のもと、消防の果たすべき役割は広範多岐にわたります。期待される責務も重きを増しておりますが、少子・高齢社会に思いをいたす時、今まで以上のきめ細かい対応が求められてくるものと存じます。

どうか皆様におかれましては、地域の安全と安心をより確かなものとするため、一

層のご精進とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、今年こそは平和な一年でありますことを願い、関係各位のご健勝とご発展を祈念いたしまして、ごあいさつといたします。

年頭にあたって



秋田県消防長会
会長 藤 枝 禮 助

平成十九年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

皆様におかれましては、防災の最前線に立つて、火災をはじめとする各種災害から地域住民を守るため、昼夜、献身的に活躍されていることに対しまして、深く感謝申し上げますとともに心から敬意を表する次第であります。

わが国の消防は、昭和二十三年に地域と密着した自治体消防として発足して以来、関係各位のたゆまぬご努力により、充実強化が図られ、国民の安全確保に大きな役割を果たしてまいりました。

しかしながら、昨今、消防防災行政を取り巻く環境は急激に変容し、災害や事故の複雑多様化、また、地震、台風、集中豪雨などの自然災害が相次いで発生し、地域住民に大きな被害をもたらしております。

昨年を振り返りますと、本県を襲った豪

雪をはじめ、全国でも六月から続いた活発な梅雨前線の影響で土砂災害等を誘発し、三十名もの尊い人命が奪われ、十一月には北海道で竜巻が発生し、同じく多くの尊い人命と貴重な財産が奪われるなど、改めて自然災害の多発国であることを痛感させられました。

これら、多様化、大規模化する災害に対応すべく、総務省消防庁では、消防組織の体制強化、および大規模災害に対する備えの強化として、「消防広域化の積極的推進」

「消防団充実・強化のための施策の積極的推進」「緊急消防援助隊の増強」「防火対象物における安心・安全の確保」などを平成十九年度の重要施策と位置づけているところであり、秋田県消防長会といたしましても、

即座に対応出来る防災体制の構築が喫緊の課題であることを認識して、各消防長の英知を結集し、「災害に強い安全なまちづくり」の実現に向け、全力を挙げて取り組んでまいります。

また本年は、昭和三十六年以来の第六十二回国民体育大会（秋田わか杉国体）が、本県で開催されるにあたり、全国から参加する人々の心に残る大会にするため、皆様はもとより関係機関との連携を緊密にし、大会運営に万全を期して支援して参りたいと考えております。

皆様におかれましても、消防防災という崇高な使命達成のため、より一層ご尽力くださるようお願い申し上げますとともに、

皆様方のご健勝と本年が災害の少ない平穏な一年でありますよう、心から祈念申し上げます。年頭にあたってのごあいさつといたします。

※ 秋田県消防長会会長である秋田市消防本部消防長藤枝禮助氏は平成十八年十二月三十一日をもって退任されました。後任に、平成十九年一月一日付け秋田市消防本部消防長に石川勝直氏が発令され、秋田県消防長会会長の残任期間就任されましたことをご了知ください。

新年のごあいさつ



秋田県警察本部長
杵 淵 智 行

平成十九年の年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

消防関係者の皆様には、日夜、火災等各种災害の最前線で、献身的に職務を遂行され、ご活躍されていることに心から敬意を表します。

昨年は、数十年ぶりという豪雪に見舞われ、一昨年末には、山形県東田川郡庄内町のJR東日本羽越本線において、特急列車「いなほ十四号」の脱線事故が発生したほか、昨年二月には、県内の乳頭温泉郷「鶴の湯温泉」においても、雪崩災害が発生するなど、多数の死傷者がでいております。

また、十一月には、北海道佐呂間町において、竜巻により多数の犠牲者が出たこと

は記憶に新しいところでございます。

近年、このような災害などの発生に加え、米国における同時多発テロ事件以降、世界各地で無差別テロが頻発し、国内においてもテロの発生が指摘されているところでもあります。

こうした中で、警察や消防などの防災関係機関には、大規模災害、突発重大事案などの発生に的確に対応し、「県民の安全で安心な暮らしを守る」という使命が課せられております。

秋田県警察では、本年の警察運営の基本方針を、「安全で安心な暮らしを守る力強い警察」～県民のために県民とともに～とし、その重点目標の一つとして、「テロ対策を始め突発重大事案・大規模災害対策の推進」を掲げ、

- ① 未然防止に向けたテロ対策の推進
- ② 突発重大事案発生時の迅速・的確な初動対応
- ③ 災害発生時における被災実態の早期把握と迅速な救出・救助活動

などに取組み、皆様を始めとする防災関係機関などとの緊密な連携を図りながら、その対策に万全を期す所存でありますので、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々のご健勝と、消防行政のご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

年頭のあいさつ



秋田県知事公室長
(兼)危機管理監
小林 憲一

平成十九年の新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、消防防災の最前線にあつて、火災を始めとするあらゆる災害から、県民の安全・安心を守るため、日夜献身的に活動しておられますことに対し、深く感謝申し上げますとともに、心から敬意を表します。

さて、一昨年から昨年にかけて、全国各地で、豪雪、集中豪雨、巨大竜巻などの自然災害が発生したほか、列車の脱線事故や化学工場の爆発事故などの大規模な災害が発生しました。

本県においても、昨冬季の記録的な大雪に見舞われた「平成十八年豪雪」では、二十四名の方々が犠牲になり、二百二十七名の方が負傷したほか、九百棟を超える住家等が損壊するなど、雪に慣れ親しんでいる本県にとつても雪害という自然の脅威を改めて思い知らされたところであります。

このため、県では、この豪雪を教訓として、除排雪態勢や住民支援態勢の構築など豪雪災害への対応指針を策定し、地域の安全を確保することとしております。

私たちは、地震や風水害等の自然災害の

みならず、産業施設に関わる事故や武力攻撃事態など多種多様な災害に遭遇するとも限りません。
こうした災害時において、最も頼りにされるのは消防機関であり、消防職員、消防団員の方々であります。

県民の防災に対する関心が年々高まり、消防の果たすべき役割と期待される責務はますます大きくなっている中で、皆様には、地域における安全安心を担うリーダー役として、今後とも一層のご尽力、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

県といたしましても、県民の安全・安心を守るため、災害に対する不断の備えを怠ることなく、皆様と力を合わせ、総合的な防災体制に充実強化に全力で取り組んでまいりますと考えております。

終わりに、皆様のご健勝と本年が災害のない平穏な年でありますよう、心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

あけましておめでとうございます。
平成十九年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。



第二十一普通科連隊長
兼秋田駐屯地司令
一等陸佐
湯浅 悟郎

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

平成十九年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、日夜献身的に消

防の第一線で活躍されておられるご努力に対し深く敬意を表しますとともに、平素から自衛隊に対するご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、近年は世界の各地において地震・津波の大災害が頻発し、また、国内においても平成十六年の新潟中越地震や最近では北海道佐呂間町の予期せぬ竜巻により、尊い多くの人命や財産を奪われましたことは、記憶に新しいところであります。

このような状況の中、地域の安全と安心を確保するためには、防災に携わる関係諸団体が英知を結集し、いかなる災害にも対処できる能力と緊密な連携並びに團結強化が不可欠であると考えます。我々自衛隊としても、その重要性に鑑み、昨年も五月二十六日の県民防災の日訓練を皮切りに八月三十日の秋田市防災訓練・九月一日県防災訓練等を通じて各機関との連携を図り、自衛隊の持つ災害対処能力を広く県民にご理解頂けたものと思っております。また、県内各市町村で実施された国民保護協議会に、その地域を担任する部隊の指揮官自らを参加させて、自治体等との連携強化施策を推進してまいりました。

今後とも、県民の生命・財産を守るといふ共通認識の下、貴協会・自治体等とあらゆる機会を踏まえて、更なる緊密な連携を図るとともに、自衛隊の災害対処能力等をご理解頂けるように努力してまいります。

終わりに、今年の平穏と消防関係各位の

安全、益々のご健勝・ご発展をご祈念申し上げ新年の挨拶と致します。

年頭のご挨拶



秋田県消防学校長
進藤 鋼司

新年明けましておめでとうございます。
皆様には、常日頃から本校に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本校は、昭和三十五年消防講習所から消防学校と改名されて以来、本年で四十六年を迎えますが、その間、二万一千余名の修了生を送り出し、消防職員並びに消防団員の教育訓練機関として、その歴史を刻んでまいりました。

さて、迎えます平成十九年は、消防幹部職員の大量退職期がスタートする年となります。この大量退職期はまた、大量採用や大量昇任の期間でもあり、本校としまして、このような状況に適切に対処すべく決意を新たにしているところであります。

まず、初任教育については、これまでの十年間における年平均入校者数は三十八名でしたが、今後十年の間は倍の七十六名が見込まれていることから、教員の適正配置や訓練用資機材の整備などに取り組み、教育訓練の一層の充実を図ってまいります。

また、警防や救助等の専科教育については、応用訓練を多く取り入れるなど、より

災害現場に即した消防技能の習得を基本目標に各種カリキュラムの見直しを行うとともに、幹部教育についても、研修日数を増やすなど現場指揮訓練の充実に努めてまいることとしております。

さらに、消防団員教育については、受講されます団員の方々が、年々、減少していることが懸念されているところですが、本校では、学校で行う基礎教育や幹部教育課程のほか、本校の教員がそれぞれの消防団を訪れて行う現地教育も開講しておりますので、是非とも多くの方々に受講していただきたいものと思っております。

年頭に当たり、本校の取組について申し述べてまいりましたが、今後とも、変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、皆様方の一層のご活躍とご多幸を祈念いたしましてご挨拶いたします。

年頭のあひまひ



秋田県指定水防管理団体
連合協議会長
大館市長
小畑元

平成十九年の新春を迎えるに当たり、全県の消防・防災関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。

昨年は、比較的災害の少ない年でありましたが、それでも、県内では七月初旬に秋田市の新城川において、梅雨前線の停滞による豪雨に起因する氾濫をはじめとして、県内河川周辺で百戸余りの家屋浸水と五十

二億円の被害がありました。このような事がある度に、水防団の皆様には、被害を最小限に食い止めるためいち早く対処していただいたところであり、改めて深く敬意を表したいと思います。

県では、このような災害状況を踏まえ、市街地を走る新城川について、来年度から集中的に河川改良工事を予定しており、同様の被害は減少するものと思われまます。これは皆様水防団の皆様の熱意に大きく応えるものと思えます。

当協議会においても、治水事業の促進に加え、洪水や土砂災害に関する情報提供やハザードマップの作成、危険情報の周知等について、関係機関に働きかけて参ります。災害時に於いてはハードは勿論ですが、皆様水防団をはじめとした人的な活躍なくしては語ることができません。

新年におきましては、災害のない一年であることを祈念しつつ、消防団の皆様おかれましては、今後とも安全安心な地域づくりの一翼を担い、より一層の御活躍を祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

年頭にあたって



(財)秋田県消防協会
副会長 奥山利八

新年あけましておめでとうございます。

平成十九年の新春を迎え、県内消防関係者の皆様とともに謹んでお喜び申し上げます。

す。災害は必ず発生すると意識と覚悟の中で、自然と過失による災害は枚挙のいとまもない程国内外各地で発生致しました。申しまでもなく地球温暖化の進行により自然破壊、生態系の変化が憂慮され警鐘乱打されているところでありまます。当県でも四八豪雪以来の雪害で対応が大いに腐心したところでしたが、西日本では、梅雨期より九月まで台風の接近と上陸により集中降雨と記録的な強風により、各地が蹂躪され、広範囲にわたり大きな被害をもたらしました。

特に、九月に宮崎県延岡市に襲来した突風竜巻は列車を転覆させるパンチ力で一瞬、一昨年暮れの羽越本線での転覆事故がよぎりましたが、十一月六日に日本では最大級の竜巻が北海道佐呂間町、中二百米長千米の面を強襲し九名の死亡者と三十三棟を全壊する大惨事となり同日にも奥尻島にも瞬時に襲来建物等に甚大な被害をもたらしました。尚秋田市でも三十四米の突風を観測されております。これらは従来から余り例のない災難でありまさに狙撃的自燃界の急襲であります。異常気象の脅威であると思っております。

昨年の選ばれた漢字は「命」に決まりましたが正に世相を象徴するものでありました。特に最近は何れにも命が粗々に扱われ、事故事件で多く失われていることに接するにつけ、改めて命の重き大切を痛感致しております。

又火災による死亡者が増加している現況

をふまえ我々消防団活動の目的である住民の生命及び身体を守る使命感をより強硬に盛り上げなければならぬと思えます。一方平成の大合併により六十九市町村から二十五市町村となり自治体の運営とともに消防団も新組織や再編成等により、より円滑な、より充実した消防団活動に邁進しなければならぬ節目の年であり、その集合体組織である県協会もそれに沿った実のあるものにならなければならないものと思っております。

年頭にあたり新たな災害に対応する意識の強化と、消防団活動運営の新しい歩みの為にも全力邁進すること固く決意致し新年のごあいさつと致します。

年頭のごあいさつ



(財)秋田県消防協会
副会長 中田潤

平成十九年の輝かしい新春を迎え、県内消防関係者の皆様には謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様におかれましては、日頃より火災をはじめあらゆる災害から地域住民の生命・身体・財産を守るため、日夜献身的にご尽力されておられますことに対しまして、深く敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

さて、昨年の災害を顧みますと、やはり日本は地震列島であり一月の茨城県南部地

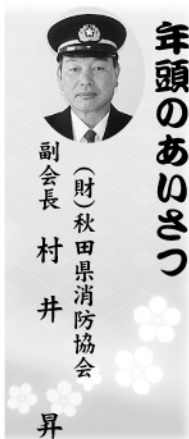
震からはじまり、四月の宮城県沖・伊豆半島沖、九月の伊予沖、十一月の奄美大島や千島列島など全国各地で次々と発生し被害も続出しました。各地で災害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げる次第であります。

また、八月十四日には、東京で広域停電となり折からの帰省ラッシュと重なり首都圏は終日交通機関が大混乱となりました。大都市での防災組織や緊急時の対策の重要性を再認識させられました。さらに、十二月には北海道佐呂間町で竜巻により九名が死亡、多数の負傷者を出すという大惨事がありました。自然災害は予測が難しいところもありますが、絶えず危険予知を心がけこうした自然災害から地域住民の生命と財産を守るという消防人の役割と使命を心に刻むものであります。

県内においては、一月の豪雪による甚大な被害や羽越本線列車事故、そして十月三日未明には、折からの強風にあおられ、八峰町役場の峰浜庁舎が全焼しました。不測の火災とはいえ、長い歴史を刻み村民に愛された庁舎を失い、また宿直した方が殉職するという誠に痛ましい災害でありました。このように、災害はいっつ、いかなるとき発生するかわかりませんが、災害時における消防団の地域密着性などの特性を生かした消防活動を推進するものであります。県協会といたしましても、消防団員の士

気の高揚と活性化を図り、資器材の整備、福祉事業の充実など、より良い環境作りを努め、安全で安心して暮らせる地域づくりに向けて精進したいと思えます。

終わりに、本年が災害のない平穏な一年であることと、皆様の「健勝」とご多幸をご祈念申し上げ、新年のあいさつといたしま



年頭のあいさつ
(財)秋田県消防協会
副会長 村 井 昇

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春を迎え消防関係者の皆様に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様には、火災を初めとする各種災害から生命・身体・財産を守るため昼夜をとわず献身的に活躍されている事に對しまして深く敬意を表します。

昨年は年初より豪雪に見舞われ人の歩くのも困難な日が続きました。このような時に火災でも起きたら……。誰もがその事を思い水利の確保、車両の通行の確保等々に思いをいたし汗した事と思えます。幸い当団には火災の発生はなかったわけですが、家屋の被害、人的な被害等々甚大な被害を受けております。毎年とどまることなく襲って来る自然災害、特に北海道でのたつまきによる一瞬のうち起きた人的被害の大きさと予知でき

ないもどかしさにいつくせない悲しみであります。二酸化炭素発生による地球の温暖化等々により増加、異常気象による局地的な集中被害が起こるだろうことが想像されます。この世が続く限り永遠に続く戦いでありますが安全で安心した地域を守るため防災の充実強化、広域的応援体制など一層の努力を傾けて行きたいと思えます。永い歴史の中、先輩の皆さんが築いてきたものを大切にしながら新時代にふさわしい消防活動の環境作りに努め「郷土愛護」の精神でさらなる安全・安心に精進したいと思

います。終わりに、本年が災害のないおだやかな年でありますように、そして皆様、御家族様共々のご多幸をご祈念申し上げ新年のあいさつと致します。



みんなで火災から命を守る

十一月二十八日発生した秋田市雄和での住宅火災は、一㎡の火事で発生した一酸化炭素中毒と思われる原因で二名が死亡しています。

原因と言われているのは、住宅構造の高機密化のため(窓が二重サッシで施錠のため煙の逃げ場なし)惨事につながったと報道されています。

焼失者を無くすため、既存住宅にお住まいの消防関係者は、率先して住宅用火災警報器を設置し、住民の命を守るため市民にPRをしましょう。

旗ヶ門専門
団体の染物
帯ゼッケン
天・ゼッケン
半旗・タオル
消防優手旗
優勝拭幕

寺田染工場

横手市清川町 ☎32-0416

秋 田 県

知 出 副 知
事 事 納 知
公 公 長 事
室 室 長 事
長 長 事 事
(兼) 危 機 管 理 監

総 合 防 災 課

主 主 副 副 副 主 政 防 課
幹 幹 幹 幹 幹 策 災
(兼) 班 長 監 監 長

消 防 学 校

主 主 副 副 副 校
主 主 校
查 查 幹 幹 長 長

大 小 伊 荒 森 進
野 松 藤 川 合 藤
光 孝 弥 康 和 鋼
徳 幸 彦 紀 美 司

松 中 鈴 塚 伊 兼 福 豊 米
田 山 木 田 藤 子 原 田 谷
貴 美 善 茂 秀 五 民
男 元 紀 也 哲 則 就 郎 憲

小 品 西 寺
林 田 村 田
憲 哲 典
一 稔 男 城



消 防 協 会

理 副 会
同 同 会
事 事 長 長

主 局 事
同 同 事
事 長

石 佐 佐
山 藤 木
和 孝 君
美 子 郎

本 鎌 草 日 里 藤 下 宮 菅 米 鈴 齋 永 米 村 中 奥 中
田 田 彌 沼 見 枝 村 城 原 沢 木 藤 井 谷 井 田 山 泉
隆 健 忠 一 喜 禮 清 正 将 正 博 久 民 利 松
爾 一 誠 之 治 助 勲 一 之 助 雄 臣 雄 憲 昇 潤 八 助



森 田 ポ ン プ ラ ビ ッ ト ポ ン プ
桜 ホ ー ス ・ ソ フ ト 吸 管 消 防 被 服 一 式
各 種 消 火 器 消 防 機 器 一 式

株式会社 協 立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52)6361
(52)6494

ト ー ハ ツ 消 防 ポ ン プ
モ リ タ 自 動 車 ポ ン プ 総 合 防 災 設 備 セ ン タ ー
消 防 被 服 全 般
秋 田 県 代 理 店

株式会社 高 義 商 会

(営 業 種 目) { ト ー ハ ツ 小 型 動 力 ポ ン プ
モ リ タ 自 動 車 ポ ン プ
ジ ェ ッ ト ホ ー ス
消 防 被 服 全 般
火 災 報 知 器 各 種
消 火 器 各 種



〒012-0105 本 社 湯 沢 市 川 連 町 字 万 九 郎 屋 布 32
TEL (0183) (42)2125
〒019-0504 横 手 市 十 文 字 町 本 町 TEL (0182) (42)0032
〒012-0844 湯 沢 市 田 町 TEL (0183) (73)2588

地 域 の 防 災 、 災 害 対 策 に 貢 献 ！

消 防 設 備
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿 田 興 業 株 式 有 限 公 司

秋 田 市 山 王 六 丁 目 10 番 9 号 T E L 018 (863) 1551(代)
猿 田 興 業 ビ ル 7 F F A X 018 (824) 3651

株式会社 タ カ ギ

秋 田 県 横 手 市 寿 町 1 番 28 号
T E L (0182) (32)3880

(営 業 種 目)

日 本 機 械 自 動 車 ポ ン プ キ ン バ イ ホ ー ス
ト ー ハ ツ ポ ン プ シ バ ウ ラ ポ ン プ
各 種 消 防 機 械 器 具 各 種 消 火 器
消 防 設 備 保 守 点 検

ホ ー ム ペ ー ジ http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/
E - mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp